

こころに、学びを。

STORIES 2020



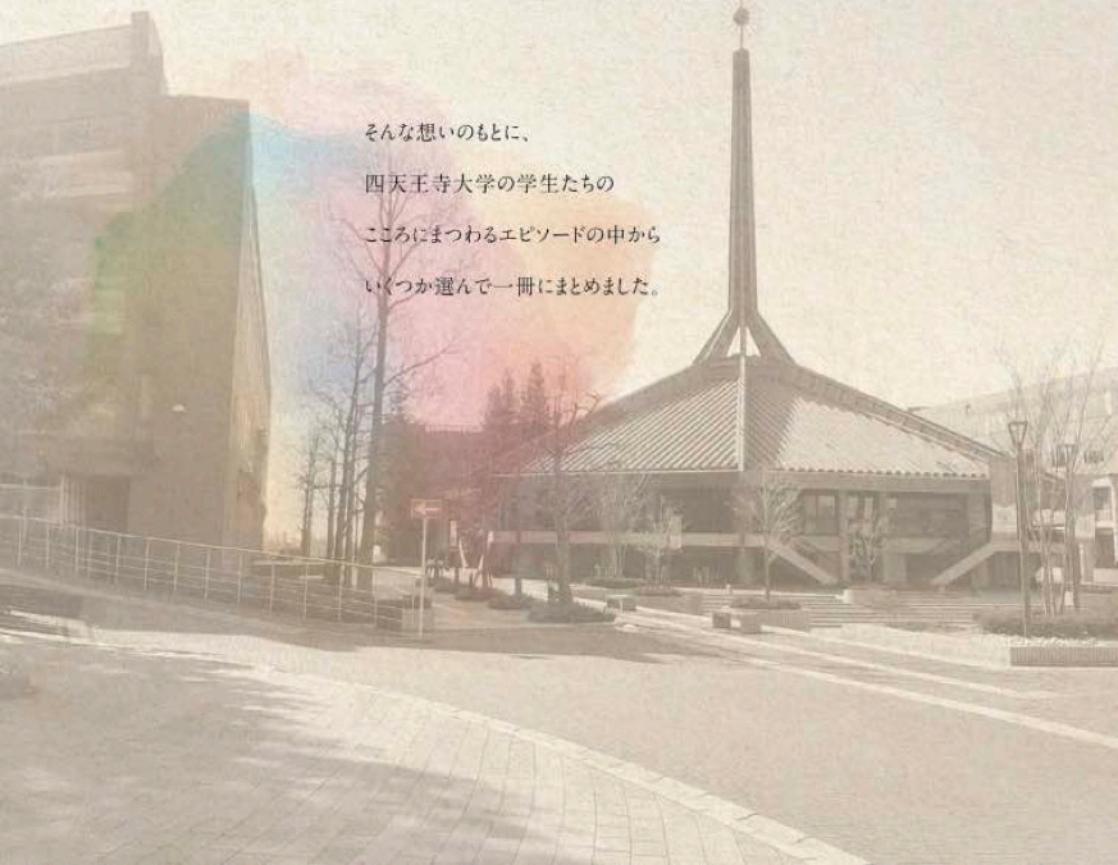
「ここに、学びを。」を伝える、
「ころ」をうごかすエピソード。

多様な社会に生きる中で、
お互いの違いを理解し、受け容れ、調和していく。

相手を尊重し、自らを高めていくには、
すべての人々に向ける「こころ」が必要です。

四天王寺大学では、聖徳太子の教えである
「和の精神」「利他の精神」を原点に、
「知識・技術を修得する学び」に加えて、
「こころに、学びを。」という想いも大切にしていきたい。

そんな想いのもとに、
四天王寺大学の学生たちの
こころにまつわるエピソードの中から
いくつか選んで一冊にまとめました。



学園訓

一、和を以て貴しとなす

一、四恩に報いよ

四恩とは

国の恩

父母の恩

世間の恩

仏の恩なり

一、誠実を旨とせよ

一、礼儀を正しくせよ

一、健康を重んぜよ





STORIES 2020

- > ベビーカーを助けて私が得た事
- > 人は必ず見ていることを実感
- > 少しの勇気
- > 小さな思いやりからの気づき
- > 人の役に立ちたいという気持ちが大切
- > してもらってあたりまえ?
- > 祖父の病気
- > 人のあたたかさを伝えていく
- > 助け、助けられ
- > お姉ちゃんを見習って
- > カラカラ空き缶
- > 改めて感じる父母の恩
- > 小さな気づかい



ベビーカーを助けて私が得た事

ある日の帰りの電車での話。若い夫婦がベビーカーにまだ小さな子を乗せて電車に乗ってきた。よく見ると女性のお腹は少し大きくなっていて、2人目のお子さんがいるようだ。私が降りる駅でその夫婦も降りるようだったが、人混みが激しく中々降りられない様子だった。私は一言「開けてあけてください。」と言いながら、夫婦のベビーカーを降ろすのを手伝った。「ありがとうございます。」と言われた後に名前を聞かれた。何故名前を聞かれたのか不思議だったが、その夫婦は私の名前を2人目の子の名前に付けてくださるとのことだった。

この日の出来事があってから私は、より利他を意識して過ごすようになった。このエピソードの時も、もちろん手伝おうという気持ちもあったが、実は自分も早く降りたい気持ちがあった。「ベビーカーが降りるのを手伝うと、私も早く降りることができるだろう」という不純な動機もあったのである。しかし、最後に残った気持ちは「早く降りることができて良かった」という気持ちではなかった。私の心は何とも言えない温かい気持ちでいっぱいだった。この出来事のおかげで、自分の利益の為に動くよりも、誰かのために動いた方が何倍も気分がいい、という事を改めて実感した。



人は必ず見ていることを実感

中学時代、職業体験の時に店長さんの言った言葉で考え方や行動に影響があった。その言葉は、「今（中学時代）はしなくていい。でも、社会に出たら人が嫌がる仕事・人が嫌がる掃除等を進んでしなさい。」「そうすれば時間はかかっても、周りの人は必ず見てくれているから、いつか評価される。」と言っていた言葉に影響を受けました。

この話を信じて、今のアルバイト先では、みんながやりたがらないグリストラップ（排水が一括でたまるところ）の掃除を毎週1人でしています。それをしていると、だんだんアルバイトの仲間が「手伝おうか？」や「その掃除できないから代わりに掃除道具買ってあげるね。」などと気にかけてくれるようになりました。職場にいる主婦の方に至っては「いつも本当にありがとうございます。」と言ってくれるので、きちんと見て、評価してくれているんだと気づきました。



少しの勇気

私が駅を出た時に周りをキョロキョロして困っている男性を見かけました。少し勇気を出して「どうかしましたか?」と尋ねると「〇〇病院に行きたいけど行き方がわからない。」と言われ、私はその病院を知っていたため一緒に行き案内しました。すごく感謝され私も嬉しい気分になりました。

その数日後、高校から突然連絡が入りました。卒業したばかりの学校からの連絡に驚きましたが、内容が先日病院まで案内した男性からのお礼の手紙とお礼の品が届いているとのことでした。私は高校の自転車のシールを取り忘れていた為、そのシールをみて高校まで連絡をしてくださったみたいです。

私はお礼をしてもらう為に助けたわけではありませんが、直接でも手紙でもすごく感謝されとても幸せな気持ちになりました。その方は奥さんがその病院に入院されており、初めて行く道中のことで私のことを奥さんにもお話をされたみたいです。お二人ともすごく喜んでくださり、少しの勇気でこんなにも喜んでくれる人がいるのだと気づきました。とても良いことに気づくことができよかったです。



小さな思いやりからの気づき

いつも働いている書店のアルバイト先のことです。私はいつものようにレジを担当していました。お客様の中に車椅子を動かしながら障がいのある方がレジに並んでいました。その人の順番になって、レジでお金を出そうとすると、レジのカウンターは少し高い位置にあり、車椅子からは無理をして支払いを済ませなければなりません。これはとても不便だと思いました。そこで「こちらにお金を置いていただいて…。」と、手が届きやすいところにお金を置いてもらうようにお願いしたところ、お客様がその時とお会計の後の2回「ありがとう。」とお礼を言ってくださいました。ほんの小さな思いやりから、感謝されるのは少し照れくさくも感じますが、やってよかったと思えました。

普段から私たちの暮らしの中には、多くの便利だと感じる事や物があります。でも、今回の件で、1人でも不便であると感じるのであれば、それはほんとうに便利なものと言えるのかという疑問を持ちました。わたしたちが気づかないうちに誰かにとって便利なものが、誰かにとって不便なものかもしれない。



人の役に立ちたいという気持ちが大切

私は毎朝、阿部野橋駅からの電車に乗って通学していて、その日はいつもより乗客が多く混んでいました。途中の駅で車椅子に乗った男性が乗ってきたのですが、いつもより混んでいる電車にイライラしている人が多かったからか、車椅子の男性が乗ってきたことに対してあからさまに嫌な態度をとる人や、「なんやねん。」と声に出して言う人などが数名いて、車内の雰囲気は一気に悪くなりました。

私は、「なんで車椅子の男性が悪いみたいになってるのだろう」と、とても悲しい気持ちになつたのですが、それ以上に車椅子の男性は悲しそうで、涙を拭っているのが私にはわかりました。それを見た瞬間、「なんとかしたい」と私は思ったのですが、知らない人に話しかけるのが得意ではない私にとって行動を起こすのはとても難しいことで、何も出来ないまま私の降りる駅につきました。「悔しい」そう思った私はとっさに、車椅子の男性にニコッと微笑み会釈をしました。すると男性はとても嬉しそうに涙を流しながら小さな声で「ありがとう。」と言ってくださいました。

もっと早く男性にかけよって、声をかけければよかったかもしれないと後悔は残りますが、あの時の私にはこれが精一杯でした。それでも「ありがとう。」と言ってくださった男性の優しさに触れた私は、これからも人の役に立ちたいと心から思うようになりました。



してもらってあたりまえ？

私はカフェで働いているのですが、長時間働いているとすごく疲れて笑顔もなかなか出せなくなってしまいます。ある日、いつも通り注文をとりに行くと、お客様が「ありがとう。」「お願いします。」と言ってくださいり、注文されたものを運ぶとまた「ありがとう。」と笑顔で言ってくださいました。お客様だからしてもらってあたりまえだと思う方も多いと思いますが、その方は常に感謝の気持ちを伝えてくださいって、とても嬉しく思いました。

その方はあたりまえのように感謝の気持ちを伝えていて、とても素晴らしいなと思いました。特にお客様と店員のような関係だと、これから先、また会う可能性は低いからこそ、思ったことや感謝の気持ちはきちんと相手に伝えたほうがいいなと思いました。そして、誰かに何かをしてもらえることはあたりまえだと思わずに、これからはきちんと感謝の気持ちを伝えているうと思います。



祖父の病気

私には大切にしていた祖父がいました。祖父は優しく、決して人の事を悪く言わず、何事もプラスで考える人でした。そんな祖父が病気で足を切りました。普段の生活が全くできなくなり、祖父は苦しんでいました。祖父と車いすでスーパーに行ったとき私は周りの冷たい視線に心がやられました。「どうしてだろう」ただそう思うばかりでした。差別である冷たい視線。自分自身もわからないうちに冷たい視線を送っているのかもしれない。だからこそ自分自身も変わっていこうと思った。

車いすに祖父が乗るなんて誰もそんな事を想像していなかった。車いすのなかでも懸命にがんばる姿の祖父をみてもっと誰もが生きやすい差別のない社会になればと本当に心から思えました。冷たい視線って感じるんだ。暖かい気持ちを持ち、接することの大切さを心から感じました。祖父は買い物に行きたくても行きたいとは言わず我慢して外ばかり眺めていました。祖父はどこかで私に遠慮していたのでしょう。私はあの時の冷たい視線を感じ、でも、「もう外に祖父と出ない」そんな感情は一切出ませんでした。ただ祖父が楽しんでくれたらそれでいいと思いました。他人の目線よりもっともっと大切なものは家族を大切にすることだと心から思いました。

ありがとうの祖父の言葉にはたくさんの思いが込められていて、いつもいつも私は祖父の言葉に励されました。懸命に生きる姿、ありがとうと当たり前に言える祖父、そんな祖父を私は心から尊敬します。



人のあたたかさを伝えていく

私は夏休みに体調を崩しました。何度か通院するために、電車に乗らなければなりませんでした。その日も朝から体調が優れなかったけれど、予約をしていたので無理をして外出しました。

電車に乗ったらすぐしんどくなってきて、立っているのもやっとでした。しかし、大阪駅へ向かう混雑した車内では席は空いていません。そんな時、見知らぬ年配の女性が声をかけて席を譲ってくださいました。その方は、乗っている間、「水飲みますか?」「さむくないですか?」などと尋ねながら背中をさすってくれました。それだけでなく、電車から降りた後もその方も初めての大坂駅だったのに、トイレを一生懸命探して連れて行ってくれました。私は、この方の行いから、人のあたたかさを知りました。私自身も、きちんと感謝を伝えることができたので、学園訓の実践ができたと思います。建前の気遣いではなく、心の奥底からの親切を受けられることは、一生であまりない体験だと思うので、本当に良かったです。

この体験をすることで、優しくされた側の嬉しさを知ることができました。された側の気持ちを知ることができ、より一層他者に親切にするべきだと気づきました。



助け、助けられ

私がアルバイト先から自転車で帰っている時、見知らぬお爺さんが道端で突然倒れました。私はすぐに駆けつけたのですが、お爺さんは手にスーパーの袋を2袋も持っていて、私一人ではどうしても起こすことができず、さらに夜道で人通りも少なかったのでどうしようかと困ってしまった時に、近くに停車していた宅配便の車から、私たちに気づいたお兄さんが「大丈夫、どうしましたか?」とすぐに助けに来てくれました。

そのお兄さんがお爺さんに尋ねたところ、一人暮らしで、お家はすぐ近くのアパートだと分かりました。しかし、そこは踏み切りを渡らないといけなくて、このままお爺さん一人で帰るのはとても危険だと思った私たちは、歩いてお爺さんをお家まで送ることにしました。アパートにはエレベーターもなく、お部屋までたどり着くのに結構時間がかかりました。その途中で、お爺さんはとても申し訳なさそうに「もう遅いし、あんただけでも帰っていいよ。」と、何度も私に声をかけてくれました。何とか無事に、二人でお家まで送り届けると、お爺さんは何度も「ありがとうな、ほんまにありがとう!」と、とても感謝してくれたので、私はつくづく助けてよかったなと思いました。

もちろん、私一人ではここまでできなかっただし、あの時きっと仕事中だったのにすぐに私たちに気づいて駆けつけてくれたお兄さんの優しさや気遣いに、私自身もとても感動しました。私もこんな優しい大人になりたいと、心から思うことができました。



お姉ちゃんを見習って

わたしには4歳年上のお姉ちゃんがいます。私のお姉ちゃんはもうすぐ就職のため実家を離れ、一人暮らしをはじめます。そんなお姉ちゃんに親のありがたさについて話をされ、お姉ちゃんはお父さんお母さんが楽になるよう家事を手伝い、たまには娯楽ができるよう機会をつくってあげていることに気づきました。そこからわたしも、さらにわたしの3歳年下の妹も家事を手伝うようになり、今では姉妹3人で家事を分担しています。

お父さん、お母さん、親にはたくさんの迷惑、心配をかけて世話ををしていただきました。しかし、わたしももう19歳です。親の恩に気づき、返すべきであるということに気づきました。日々、当たり前になってしまっていることもあります。きちんと言葉や形でこれまでの恩をきちんと返せるような行動をしたいと思います。

看護学部 看護学科



カラカラ空き缶

電車に乗っているとき、空き缶がカラカラ音を鳴らしながら車両内を転がっていた。みんな音のする方を見ていたが、それが空き缶の音だと分かると無視をしたり近づかないように離れた所に移動したりしていた。私もその空き缶を見たが、多くの人の視線が集まっているその空き缶に近くることはできなかった。

しかし、同じ車両の端っこに乗っていたある男の人が、わざわざその空き缶を取るために移動し、駅に着いた時にゴミ箱に捨てているのを見た。私はその男の人の行動を見て、とてもかっこいいと思った。その場にいるほとんどの人が、空き缶を見て嫌な気持ちを抱いていたと思う。でも、それを自分がどうにかしようと思えることは凄いと思うし、それを行動に移せることはとても勇気がいると思う。

何か気になったことがあったとき、自分が無視をすると、その後誰かが動かなければいけなくなると分かった。それなら、気づいた時に自ら動くほうが周りの人も助かるし、自分も気持ちがいいことに気が付いたので、これからはそうしていきたい。



改めて感じる父母の恩

私がアルバイトを始めてから、約3年が経過しています。いま振り返ってみると、アルバイトで稼いだお金を、プライベートで遊びに行く時や趣味のためにも使ってしまうので、一向に貯蓄額が増えていません。こんなとき「お金を稼ぐことは本当に大変だ」と、改めて思い知られます。

こうしていくら私が頑張ってみても、大学の学費を払えるほどのお金は今現在持っていないし、それだけではなく通学の交通費なども必要になります。それにもかかわらず、「お金のことは気にしなくていいよ。」と一生懸命貯めたお金を使わせてくれる父。そして、私の通学の時間に合わせて毎朝早く起きてくれ、アルバイト後の夕食も遅い時間になって寝るのも遅くなるのに、時間を調整して合わせてくれる母に対しても、本当にありがたいと思っています。

今まで支えてくれた父母、これからも応援し続けてくれる父母には感謝をしてしきれません。やがて社会人になって自立したとき、これまで私がもらった分を今度は返していく番です。

学園訓である「父母の恩」とは、私にとってまさにそのことで、忘れてはいけないと強く思っています。



小さな気づかい

学校の周辺を友達と一緒に歩いていた時のことです。何かはっきりとは覚えていないのですが、落ち葉などではなくお菓子のごみのようなものが落ちていました。その時に一緒に歩いていた友達が「なんでも拾ってしまうわ～。」と言いながら、そのごみを拾ってごみ箱に捨てました。

今思い返すと、その友達はこのような事を、この時だけでなく当たり前のようにたばこの吸い殻やプリントなどを拾ってはごみ箱に捨てていることに気がつきました。誰も気にとめず通り過ぎていくような事であり、私自身も全く気づかず通り過ぎていました。褒められる訳でも、感謝される訳でもありません。でも誰も見ていない所で、自然にこのような事ができる友達が凄いと思いました。

それから私も少し勇気を出して駐輪場で自転車が倒れていたら、直したりするように心がけています。小さな事かもしれません、このように一人ひとりの小さな気づかい行動で気持ち良く生活ができる社会になっていくのではないかと思いました。そして、介護福祉士をめざして学んでいる私にとってとても大切な事ではないかと考えました。

自らの考え方や行動に影響を与えた、
いくつかのエピソード。

読んだみなさんのこころに、
私たちの想いが届きますように。

四天王寺大学はこれからも
「和の精神」「利他の精神」をもとに、
「こころの学び」の大切さを伝えていきます。

ここ
ろに、
学
びを。



四天王寺大学
四天王寺大学短期大学部

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1 <http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/>
TEL.072-956-3183(入試・広報課直通) TEL.072-956-3181(代表)